

平成25年度事業報告書

「神戸市民の福祉をまもる条例」の理念である市、事業者及び市民の三者が有する人材、資力などを総合的に活用することによって市民福祉を振興するための事業を創造・推進させ、市民福祉の向上に寄与することを目的に、公益財団法人への移行初年度である平成25年度は下記のとおり各種事業に取り組んだ。

【公益目的事業】

I 市民の福祉意識の啓発並びに福祉活動の普及及び助長[公1]

福祉資源としての市民の有する力のさらなる活用を図るために、市民に対する福祉意識の啓発や市民の福祉活動を振興する事業を実施した。

1 市民の福祉意識の啓発を図る事業

(1) 情報誌の発行

市民福祉への理解を深めることを目的に、当協会の取り組んでいる事業内容の他、福祉や健康に関する情報を掲載した情報誌「市民ふくし」を発行した。

[発行回数]年6回 [発行部数]各30,000部

(2) ふれあい体験学習

市民の思いやりの心を育むことを目的に、学校・企業等の団体を対象に、福祉に関する講義や車いす・アイマスク・白杖等を用いた介護実習及び福祉施設での実習等を行った。

[参加者数] 2,581人

(3) ユニバーサルデザインの普及啓発

ユニバーサル社会の実現を目指し、より多くの市民にユニバーサルデザインへの理解を広げていくため、講義やワークショップを通して学ぶ「こうべUD大学」や「夏休み親子UD体験教室」等を実施したほか、啓発及び関連団体の取り組みのPRの場として「こうべユニバーサルデザインフェア」等を実施した。

① こうべUD大学 [実施回数]全10回 [登録者数]35人

② 夏休み親子UD体験教室 [実施回数]年1回(8月7日) [参加者数]86人

③ こうべユニバーサルデザインフェア

[実施回数]年1回(3月23日) [来場者数]11,000人

④ UDスポット見学ツアーinしあわせの村 [実施回数]53回 [参加者数]517人

(4) ダイアログ・イン・ザ・ダーク

完全に光を遮断した空間の中で、視覚障がい者のアテンドのもと、グループで様々なシーンを体験することにより、相互理解を深め、コミュニケーションの大切さを再確認するソーシャルエンターテインメントとして、一般向け参加者向けのプログラム及び企業向けのワークショップのほか、近隣小学校向けのプログラムを新たに実施した。

[開催期間]10月2日～9日 [参加者数]計649人(うち小学校5校・254人)

2 市民の福祉活動の振興

(1) 市民福祉事業・福祉活動助成

市民活動の活性化による福祉都市神戸の創造を目的に、神戸市民の福祉の発展・向上に資する事業・活動の実施等に対する助成を行った。

[助成件数]11件 [助成金額]計1,920千円

(2) 手話・点訳ボランティアの養成と活動支援

視覚・聴覚障がい者についての理解を深めるとともに、市民ボランティアの育成を目指し、手話及び点訳の講習会を行った。

また、同講習会修了者を中心に組織されたボランティア団体に対する運営の支援や活動機会の提供を行った。

- ① 手話講習会 [実施回数]全26回 [修了者数]21人
- ② 点訳講習会(初級) [実施回数]全25回 [修了者数]18人
 - (中級) [実施回数]全25回 [修了者数]6人

(3) 介護教室

福祉意識の向上や介護知識・技術の習得などを目的とした教室や講演会を行った。

- ① 男性介護教室 [実施回数]年2回(1月11日、3月15日) [受講者数]計24人
- ② 障がい者介助実技教室
 - [実施回数]年3回(9月27日、12月7日、3月8日) [受講者数]計15人
- ③ こども点字教室 [実施回数]年1回(8月3日) [受講者数]29人
- ④ 講演会「認知症を学ぶ」 [実施回数]年1回(11月9日) [受講者数]45人

3 高齢者や障がい者の社会参加の支援

(1) 「こうべ長寿祭」の開催等

長寿社会を明るく活力に満ちたものにするため、高齢者のスポーツと文化の振興を図り、高齢者的心身の健康の保持・増進に寄与するとともに、長寿社会における健康と福祉に関する市民の理解を深めることを目的に「こうべ長寿祭」を実施し、神戸市代表選手団を「全国健康福祉祭こうち大会」へ派遣した。

- ① 第26回こうべ長寿祭

[開催期間]4月23日～10月28日 [参加者数]計3,645人

- ② 第26回全国健康福祉祭こうち大会

[開催期間]10月26日～29日 [神戸市代表]計117人、美術作品11点

(2) こころのアート展

障がい者の芸術作品の魅力を広く社会に知っていただくとともに、活躍の場を拓くことを目的に、芸術活動に取り組む兵庫県内の障がい者を公募し、しあわせの村において作品展を開催した。

また、オープニングには支援者向けの講演会及びパネルディスカッションを開催したほか、巡回展を神戸市役所市民ギャラリーにおいて開催した。

- ①作品展 [開催期間]11月2日～10日 [出展者数]12人(計55作品) [来場者数]計4,600人
- ②講演会 [開催日]11月2日 [参加者数]36人
- ③巡回展 [開催期間]2月4日～16日 [来場者数]413人

(3) 発達の気になる子の体験ひろば

学校行事等への適応に対する不安を抱える発達障がい児に対し、事前に体験しておくことにより、その不安を解消する機会を提供するプログラムを実施するとともに、参加児童の保護者向け講座や交流会を実施した。

- ① 体験ひろば(小学1年生クラス) [実施回数]全10回 [参加者数]17人
(小学2・3年生クラス) [実施回数]全10回 [参加者数]25人
- ② 保護者向け講座
[実施回数]年4回(9月8日、10月13日、11月17日、12月8日) [参加者数]計157人
- ③ 交流会 [実施回数]年1回(3月16日) [参加者数]21家族、66人

4 市民福祉事業の調査研究及び開発

福祉を取り巻く社会経済情勢の変化により新たに生じるニーズに対応しながら、市民福祉の向上のための事業の調査研究・開発に取り組んだ。

25年度は、若手職員により少子高齢化や核家族化の進行を背景とした地域・家庭における人間関係の希薄化に対応した新たな世代間交流事業の事業化に向けた調査・検討を行ない、中間報告をまとめた。

II 総合福祉ゾーン「しあわせの村」をはじめとする市民福祉施設の管理運営【公2】

市民の心身の健康や福祉の増進を図るため建設された市民福祉施設における設立理念の実現を目指した管理運営を通して、市民福祉の向上を図る事業を実施した。

A 総合福祉ゾーン「しあわせの村」運営事業

「神戸市民の福祉をまもる条例」の基本理念である「自立と連帶」の実現をめざし、高齢者・障がい者をはじめとするすべての市民があたたかいふれあいの中で思いやりや助け合いの心を育み「つどい」・「楽しみ」・「学び」・「憩う」場としての「しあわせの村」の運営を専門的能力を有する事業者と共同事業体を構成し、指定管理者として行った。

協会は、共同事業体代表法人として、運営全体の総合調整を行うとともに、利用者の安全・安心の確保や施設の維持管理を行った。また、市民福祉の理念の実現のため、福祉的事業や市民交流事業の企画・実施等に取り組んだ。

各施設の管理運営については、共同事業体の各構成団体及び運営協力事業者が専門的能力を発揮することにより、互いに連携をとりながら、全体として利用者サービスの向上や効率的な運営に取り組み、開村25年目を迎えた市民福祉の拠点施設である「しあわせの村」の事業運営の充実を図った。

25年度は、客室改修工事等に伴う本館の休業並びに修繕工事及び天井部材落下事故に伴う

プールの休業の影響等もあり入村者数は24年度に比べると減少し、1,847千人となった。

【平成25年度しあわせの村利用状況】

	利用者数	対前年度比
入村者数	1,846,900人	97.9%
施設利用者数	1,057,209人	96.4%
宿泊施設	77,430人	94.0%
温泉	222,550人	97.8%
屋内運動施設	281,809人	92.1%
屋外運動施設	374,680人	101.6%
その他施設	100,740人	89.5%

1 障がい者の自立や社会参加を促進するための事業

(1) 障がい者就労カフェ

障がい者就労の場の拡充と来村者への福祉意識の啓発を目指し、本館・宿泊館1階において、障がい者と健常者がともに働く障がい者就労カフェの運営を行った。

[利用者数]58,546人

(2) はっぴねすコーナー

本館・宿泊館及び温泉健康センターにおいて、障がい者施設(村内・市内・東北被災地の計8施設)の授産品やユニバーサルデザイン製品の展示(3団体)や施設の活動を紹介するコーナーの運営を行った。

(3) ふれあいコンサート

音楽活動を通じた障がい者・高齢者の社会参加や市民とのふれあいの促進を目的に、家族や友人とともに音楽を楽しんでいる障がい者・高齢者のグループや音楽を通じたボランティア活動を行っているグループが出演するコンサートを行った。

[開催期間]4月27日～28日 [出演団体数]計41団体 [来場者数]計1,090人

(4) ファミリー日帰りキャンプ

身体・知的障がい児とその家族がキャンプやレクリエーション活動を通じて、参加者同士の交流を深め、リフレッシュできる場を提供した。

[実施回数]年1回(9月29日) [参加者数]31家族・127人

(5) 障がい者スポーツ教室

障がい者の健康増進、心身機能の維持・回復や生きがいづくりを目的に各種スポーツ教室を行った。

[実施種目]水泳、卓球、運動あそび、テニス、アーチェリー、ニュースポーツ

[受講者数]計721人

(6) ユニバーサル農園活動

ユニバーサル農園において、レクリエーションや機能回復等の一環として、村内の福祉施設利用者などに野菜の栽培や収穫等の農園活動の体験機会等を提供した。

[参加者数]6施設・計590人

2 高齢者の自立や社会参加を促進するための事業

(1) シルバーカレッジの運営

高齢者の豊かな経験を活かして自らの可能性を拓き、その成果を社会へ還元することを目指して、高齢者に学習及び実践活動の場を提供することを目的に、健康福祉、国際交流・協力、生活環境、総合芸術等のカリキュラムの他、地域でのボランティア活動も交えたカリキュラムを実施するとともに、学生ボランティアグループや卒業生が行う社会還元活動に対する支援・協力も行った。

[年度末在籍学生数]1,121人

また、開校20周年を迎えたことから、10月には記念式典及びシンポジウムやコンサートを開催したほか記念誌を作成し、これまで行ってきた社会還元活動の取り組みについて振り返るとともに、シルバーカレッジの存在を広く市民へ発信した。

(2) シニア健康スポーツ教室

寝たきりや認知症予防を目的に、一泊二日の日程で軽運動や健康講話、栄養講座等を行った。

[実施回数]年10回 [参加者数]計97人

(3) 介護予防教室

老化による心身機能の低下の防止と健康維持を目的に、軽運動やレクリエーション活動を行った。

[実施回数]年143回(毎週水、木、金) [参加者数]計1,582人

(4) 60歳からの男性料理教室

料理経験の少ない男性高齢者の食生活の改善や自立を支援することを目的に、調理を基礎から指導する教室を実施した。

[実施回数]年3期(各期2クラス) [受講者数]計72人

(5) 高齢者スポーツ教室

高齢者の健康増進、心身機能の維持・回復や生きがいづくりを目的に各種スポーツ教室を行った。

[実施種目]水泳、卓球、バドミントン、テニス、アーチェリー、ニュースポーツ

[受講者数]計1,444人

3 児童の健全な育成を図る事業

(1) 夏休み親子料理教室、アウトドアクッキング

子どもたちが食材に触れ、楽しみながら食に関心を持つとともに、料理を通じた親子のふれあいの場を提供した。

① 夏休み親子料理教室 [実施回数]年4回(8月3日・4日、各2回) [参加者数]計33家族・75人

② アウトドアクッキング [実施回数]年2回(11月16日・17日) [参加者数]計49家族・166人

(2) わいわいストリート

シルバーカレッジ卒業生を中心とするNPO法人「社会還元センターグループわ」との協働により、親子で楽しく遊べる昔あそびを行い、三世代間の交流の場を提供した。

[実施回数]年1回(5月5日) [参加者数]1,600人

(3) おはなしの会

幼児が絵本や紙芝居に触れ、豊かな感性と創造性を育む機会を提供するとともに、ボランティアへの機会提供による担い手の育成を目的に、読み語りの会を開催した。

また、ボランティアグループが一堂に集まる「おはなしカーニバル」を開催した。

① おはなしの会 [実施回数]年76回 [来場者数]計2,417人

② おはなしカーニバル [実施回数]年1回(11月3日) [来場者数]490人

(4) ちびっ子写生会

写生会を通して、子どもたちに村の豊かな自然環境を体感する機会を提供した。

また、作品については村内施設に掲示するとともに、優秀作品に対して表彰を行った。

[実施回数]年1回(5月3日) [参加者数]435人

(5) 昆虫採集と標本作り教室

昆虫採集や標本作成を通じ、親子の絆を深めるとともに、子どもたちが生物を観察し、関心を高め、身近な自然の多様性を学ぶ機会を提供した。

[実施回数]年4回(8月3日・4日、各2回) [参加者数]計69家族・92人

(6) 夏休み工作塾

創意工夫し表現することの実体験を通じた親子の絆づくりと高齢者ボランティアの指導を通じた世代間交流の場を提供した。

[実施回数]年2回(8月18日、2回) [参加者数]計660人

(7) たこづくり・たこあげ大会

親子でたこを手づくりする喜びを分かち合い、コミュニケーションを育むとともに、村の広大な広場で伸び伸びとたこあげを体験する機会を提供した。

[実施回数]年1回(1月12日) [参加者数]1,200人

4 市民福祉の拠点施設としての施設を維持するとともに活性化を図る事業

(1) 総合的な施設の管理運営

- ① 誰もが安全・安心・快適に利用できるよう、施設の保守・修繕や警備等の村内施設の総合的な維持管理を行った。
- ② 高齢者や障がい者の利用割合が高い施設の特性を考慮しながら、当協会において策定した「しあわせの村ユニバーサルデザイン推進指針」に基づき、当事者の意見を活かしながら検証し、誰にでもやさしい「村」づくりを進めた。
 - ア. 全景模型（音声案内・触地図機能付）、デジタルサイネージ及びタッチ式検索パネルを組み合わせた誰もが自由に村の情報を得ることができる情報コーナーを設置（総合センター）
 - イ. 視覚障がい者用歩行誘導ソフトマット敷設及び音声案内ラジオの設置（総合センター、温泉健康センター、保養センターひよどり）
- ③ 一年中花がみられ、市民の憩いとリフレッシュの場として人気が高い緑地について、引き続き快適な空間として良好に維持管理するとともに、来村者が緑豊かな環境を楽しむことができるイベント等を実施した。
 - ア. 日本庭園 夜桜ライトアップ（4月5日～7日※6日雨天中止） [来場者数]計400人
 - イ. 日本庭園 月見の夕べ（9月16日） [来場者数]400人
 - ウ. 日本庭園 花菖蒲ライトアップ（6月7日～9日） [来場者数]計353人
 - エ. バードウォッキング（4月29日） [参加者数]198人
 - オ. 緑のオリエンテーリング（7月6日、11月3日） [参加者数]計308人
- ④ 市民の理解をより一層深めていただくための情報発信や運営改善のためのアンケート調査を行った。
 - ・入村者アンケート調査 [実施回数]年1回（10月17日、19日） [有効回答数]678人
 - ・ホームページやメールマガジンを引き続き運営するとともに、新たにフェイスブックの活用による情報発信の強化に取り組んだ。
- ⑤ 村内の管理業務等の一部を障がい者団体への委託等により行い、障がい者の就労の場の確保を図るとともに、自立や社会参加のための活動を援助した。
 - ア. ごみ分別回収・トリム園地清掃
 - イ. しいたけ・ブルーベリー等の栽培
 - ウ. 保養センターひよどり周辺の園地管理
 - エ. 自動販売機の管理

(2) 多くの市民が集い、楽しみ、憩い、交流を深めるための事業

① こうべ福祉・健康フェア

市民の福祉意識を啓発し、ボランティア活動の情報提供や健康に関する正しい知識の普及・啓発を図ること目的に、福祉施設・障がい者団体によるバザーや模擬店の他、福祉用具展、各種検診や児童の歯科医師体験等を行った。

[実施回数]年1回（10月6日） [来場者数]20,000人

② しあわせの村まつり

村内施設や関係団体、近隣地域の参加・協力により、広く市民が交流する地域の夏祭りとして、模擬店、ステージイベント等を行った。

[実施回数]年1回(7月27日) [来場者数]25,000人

③ リサイクルバザー

資源の有効活用を通した市民相互の支え合いと環境意識の啓発を目的に、市民出店者による不用品等のリサイクルバザーを開催した。

[実施回数]年6回(6月1日・2日、11月9日・10日(中止)、3月22日・23日) [来場者数]計59,000人

④ マンスリーミニコンサート

しあわせの村を訪れる幅広い世代の方々に季節を感じ癒しのひと時を過ごしていただくことを目的に、神戸市混声合唱団によるコンサートを開催した。

[実施回数]年12回(毎月1回) [来場者数]計3,510人(開村25年コンサート含む)

⑤ しあわせの村ボランティア

しあわせの村での事業に大学生から高齢者までボランティアの参加を広く求め、活動の場の提供と支援を行うとともに、ボランティア活動への動機付けやスキルアップのための研修会・交流会等を行った。

[活動内容] 各種イベントの運営補助、イベントの自主企画・運営(年5回)、
障がい児、障がい者向けスポーツ教室の指導補助、おはなしの会、
花壇のデザインや植え付け・手入れ等の村内の飾花

[登録者数/活動人数]

ア. 障がい者向けスポーツ教室指導補助ボランティア (48人/延1,620人)

イ. 社会人ボランティア (121人/延732人)

ウ. ユース(大学生)ボランティア (63人/延671人)

エ. 花緑ボランティア (32人/延357人)

(3) 開村25年事業

① 植樹式

4月21日に関係者出席のもと、記念コンサートと併せて記念植樹式を行った。

[来場者数]460人(上記(2)の④「マンスリーミニコンサート」に含む)

② しあわせの村の絵の制作

神戸市在住の日本画家である西田眞人氏(京都市立芸術大学教授)に開村25年を記念し「春景しあわせの村」を制作していただいた。

③ 「博物館が村にやってきた」

夏休み期間中に神戸市立博物館の学芸員を招き、講演会のほか、子ども向けのワークショップ及び所蔵品の展示を行った。

ア. 講演会「プーシキン美術館展」(8月10日) [受講者数]33人

イ. ワークショップ「古代生活体験」(8月11日・12日) [参加者数]231人

ウ. 展示「源平合戦図屏風」・「伊能小図」 [展示期間]8月10日～16日

B 平磯児童館の運営

児童に健全な遊びの場を提供し、その健康を増進し、または情操を豊かにする活動を通じて地域における市民福祉の向上に寄与することを目的に、指定管理者として運営を行った。

① 児童健全育成事業

自由来館児童への遊びの提供・指導、季節行事、在宅福祉センターや地域福祉センターの高齢者との交流会等を実施した。

② 子育て支援事業

- ・「幼児の会」(毎週1回、計604人参加)
3・4・5歳児の親子を対象にした手遊び等のプログラムを実施した。
- ・「ミニ幼児の会」(毎週1回、計125人参加)
2歳児の親子を対象にした手遊び等のプログラムを実施した。
- ・「すくすく広場」(毎月1回、計288人参加)
0～5歳児の親子同士の交流を図るための季節行事等のプログラムを実施した。

[来館者数]7,915人

III 介護保険制度の公正・公平な運営を確保するための事業[公3]

協会の中立性と専門的資格を有する人材を活用し、介護保険制度の公正・公平な運営の確保に寄与するための事業を市からの受託により実施した。

1 要介護認定調査業務

指定市町村事務受託法人として、市内全域における介護保険サービスの受給を新たに申請する市民及び要介護度の変更を申請する市民に対して訪問・調査を行った。

[調査件数]28,717件

2 地域包括支援センター巡回調査業務

地域包括支援センター(31センター)を定期的に訪問し、介護予防ケアマネジメント業務に対する調査や助言等を行った。

【収益事業等】

指定管理施設に付帯する便益施設及び市民福祉施設等の運営

1 しあわせの村

(1) 便益施設等の運営

- ① 有料駐車場の管理運営 [(有料)利用台数]311,096台
- ② 飲料等自動販売機及び公衆電話の設置運営
- ③ 野菜・鮮魚等直売所(しあわせマルシェ)の運営 [利用者数]192,883人
- ④ 貸館(シルバーカレッジ内ホール等、日本庭園内茶室)

[利用人数]ホール 3,945人、茶室 560人

(2) 東日本大震災被災地支援活動の実施

震災直後に実施した募金活動や救援物資の送付以降、毎年行っている支援活動を引き続

き行つた。

- ① しあわせの村関連団体と協力し、被災地を訪問して、昔あそびや料理、コンサート等の交流事業を行つた。[訪問期間]7月2日～6日
- ② 被災地の障がい者施設の授産品の販売

2 垂水海浜センター

市民の教養文化の向上と福祉の増進を図るため建設した同施設の管理運営業務を行つた。

- ① 施設の貸与
児童館、地域福祉センター、ボランティアコーナー（在宅福祉センターは神戸市所有）
- ② 貸館（会議室4室、ホール1室） [利用者数]62,086人
- ③ 施設の維持管理
保安管理、清掃、植栽管理、設備維持管理
- ④ 有料駐車場の管理運営 [利用台数]19,648台
- ⑤ 自動販売機の設置運営

3 保養センター太山寺・ラジウム温泉太山寺

市民の健康の保持・増進を図るために建設した同施設について、公募により選定した民間事業者により運営を行つた。

[利用者数]（宿泊）10,018人 （温泉）265,300人

4 福祉機器展示コーナー

身体障がい者や高齢者の快適な生活を支援するため、民間専門事業者への委託により、福祉用具・介護用品の展示・販売や相談を行うとともに、福祉用具リサイクル事業として、提供希望者と譲受希望者のコーディネート及び運搬・修理を行つた。

[来場者数]3,426人 [リサイクル成立件数]20件

5 サン舞子マンション

平成23年度に社会福祉法人へ事業を承継したが、引き継いだ入居者に対する相談対応や入居預り金の管理を引き続き行つた。[年度末入居者数] 16戸・18人